

**けいはんな情報通信オープンラボ研究推進協議会
第14回 企画・広報分科会
15年度活動報告・16年度活動計画(案)**

2016年5月11日
企画・広報分科会

○ 分科会の構成（敬称略）

（リーダー）

松本 幸則（パナソニック 全社CTO室 技術戦略部 技術戦略課 主幹）

（サブリーダー）

村田 稔樹（沖電気工業 研究開発センター スペシャリスト）

○ 分科会の活動方針

1. 創造系活動

- ・定期的な会員への研究ニーズ調査
- ・研究ニーズに基づき、新たな産学官連携研究開発テーマを検討

2. 促進系活動

- ・各研究開発テーマ間の交流促進
- ・シンポジウムや施設見学会等イベントの企画・実施による産学官連携促進
- ・産業振興や市民生活向上の観点からのアウトプット活用方策検討などの成果活用促進

3. 整備系活動

- ・研究開発整備要望など研究活動推進

2015年度の活動報告①

1. 創造系活動

- ① WG活動費をWGに配分し、WG活動の支援を継続した。会議費などに有効に活用していただいた。
- ② 9月に全会員向けに要望アンケートを実施。また、シンポジウム、セミナーの機会にアンケートを実施し、協議会活動への要望等を調査した。

2. 促進系活動

- ① けいはんな情報通信オープンラボシンポジウム2015「グローバルコミュニケーションシンポジウム2015～2020年に訪日外国人が日本語で困らない社会の実現に向けて～」を**グローバルコミュニケーション開発推進協議会と共同で関西に誘致し開催**した（10月22日、大阪府立国際会議場）。
- ② 総会での講演会を企画、実施した（荻原総務省室長と鳥澤NICT室長によるご講演、6月12日）。
- ③ けいはんな情報通信フェア2015において、**新たにメンバーによるデモ展示**をおこない、研究活動の紹介とアピールを実施（10月29-31日、けいはんなプラザ）。
- ④ セミナーの開催による情報提供、人材育成の実施（11月19日、12月24日）。
- ⑤ ウェブページの充実により、協議会活動の一層のPR、普及・啓発活動につとめた。
- ⑥ 関連団体（グローバルコミュニケーション開発推進協議会、超臨場感コミュニケーション産学官フォーラム、次世代安心・安全ICTフォーラム）と共催でシンポジウム、セミナーをおこなうなど、情報交換、交流をおこなった。また、新たな連携団体である、**関西ICT研究交流連絡会を設立**し、イベント情報の交換をおこなった。
- ⑦ グローバルコミュニケーション準備WGの活動を継続した。

3. 整備系活動

- ① オープンラボ施設の充実に向けた活動として、新世代通信網テストベッドJGN-Xなどのネットワーク施設の維持、整備を実施。
- ② オープンラボ施設の利用促進に向けた広報を継続。オープンラボ施設の利用者は1社退去、1社入居。

2015年度の活動報告②

	2015年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2016年 1月	2月	3月
企画・広報分科会		● 第13回 分科会 (4/17)											● 第14回 分科会 (3/8)
創造系活動	→												
促進系活動	→ 総会企画準備				→ WG活動支援 テーマ、ニーズ調査 ●			→ シンポジウム開催準備		→ セミナー開催準備			
	→ 随時情報発信(Webサイト&イベント案内メール送付)												
整備系活動	→ けいはんな情報通信オープンラボの整備・運用												
	→ JGN-Xなどのネットワーク施設整備・運用												
グローバルコミュニケーション準備WG		● WG会合 (4/21)	● WG会合 (5/29)	● WG会合 (6/30)		● メンバー募集、打ち合わせ等 WG会合 (7/27)				● WG会合 (12/1)			● WG会合 (3/25)
【協議会関連】		● 第15回 運営研究 部会 (5/19)		● 第14回 総会 (6/12)		● 協議会主催 シンポジウム (10/22)		● けいはんな 情報通信 フェア2015 (10/29-31)	● セミナー (11/19)	● セミナー (12/24)			
	→ 事務局打合せ、月1回程度開催												

けいはんな情報通信オープンラボシンポジウム2015 開催結果

- 日時: 2015年10月22日(木) 13:00~19:00
- 場所: 大阪府立国際会議場(グランキューブ) 特別会議場
- 来場者数: 235名(交流会88名)
- 主催: グローバルコミュニケーション開発推進協議会
- 共催: けいはんな情報通信オープンラボ研究推進協議会
国立研究開発法人情報通信研究機構(NICT)

○概要:
本年度は、グローバルコミュニケーション開発推進協議会が大阪にて主催するシンポジウムに共催するとともに、当協議会より、「多言語音声翻訳技術への期待」と題し講演をおこないました。本シンポジウムは、グローバルコミュニケーション計画の中核となる多言語音声翻訳技術及びその技術を利用した社会実装への取り組みを紹介するもので、大勢の参加を得、本計画への関心の高さをうかがわせました。講演に加え、桂氏のVoiceTraを用いた落語も好評でした。展示会では、出展者の取り組みの紹介やビジネスマッチングがおこなわれました。来場者からは、多言語翻訳技術の実用化や社会実装への進展を感じたなどの感想をいただきました。

- プログラム
- 「グローバルコミュニケーションシンポジウム2015
～2020年に訪日外国人が日本語で困らない社会の実現に向けて～」
- ◆開会の挨拶 須藤 修 氏 (グローバルコミュニケーション開発推進協議会会長)
- ◆来賓の挨拶 奥水 恵一 氏 (総務大臣政務官)
- ◆講演「「グローバルコミュニケーション計画」の推進」
富永 昌彦 氏 (総務省官房総括審議官)
- ◆講演「“VoiceTra”(ボイストラ)を支える音声翻訳技術」
河井 恒 氏 (情報通信研究機構)
- ◆特別企画「落語家による多言語音声翻訳技術の紹介」
桂 三四郎 氏 (落語家)
- ◆講演「多言語音声翻訳システムの概要と活用事例について」
星見 昌克 氏 (パナソニック(株))
- ◆講演「訪日外国人に向けた現状の対応方法と多言語音声翻訳技術に期待すること」
渡邊 琢太 氏 ((株)ドン・キホーテ)
- ◆講演「多言語音声翻訳技術への期待」
副枝 裕司 氏 (当協議会WG主査)
- ◆閉会の挨拶 岡村 和男 氏 (当協議会運営・研究部会長)
- ◆展示会(13ブース)
- ◆交流会



須藤 修 氏

奥水 恵一 氏

富永 昌彦 氏



展示会の様子



VoiceTra新バージョンのデモ



河井 恒 氏



桂 三四郎 氏



星見 昌克 氏



渡邊 琢太 氏



副枝 裕司 氏



岡村 和男 氏

テレワーク月間セミナー ～超臨場感テレワークの技術開発と将来展望～ 開催結果

- 日 時: 2015年11月19日(木) 13:30～17:00
- 場 所: けいはんなプラザ 黄河の間
- 来場者数: 49名 (アンケート回収数15)
- 主催: けいはんな情報通信オープンラボ研究推進協議会
- 共催: 総務省近畿総合通信局
臨場感コミュニケーション産学官フォーラム

○概要:
テレワークや在宅勤務の活用が進む中、この分野でICTを活用することにより何ができるかが問われています。今回の講演ではまず、総務省より、テレワーク推進に関する国の取り組みを紹介いただき、次に、沖電気様が中心になって進めている高臨場感テレワークシステムの紹介がなされました。最後に藤田教授より端末の利用状況から多忙度を推定する取り組みについて講演がなされ、離れていてもその場にいるのと同じように勤務ができる未来のテレワークへの期待が感じられました。見学会では、遠隔のオフィスと結んで実際に業務で使用している実験オフィスが公開され、コミュニケーション端末の操作やマイクロホンアレイを用いた收音技術などを体験しました。

○プログラム

◆講演1

「総務省におけるテレワーク推進の取り組み」
総務省 情報流通行政局 情報流通高度化推進室 課長補佐
橋本 桂樹 氏

◆講演2

「超臨場感テレワークシステム」
沖電気工業株式会社 研究開発センター
メディア処理技術研究開発部 部長 野中 雅人 氏

◆講演3

「テレワーカーの多忙度推定技術とその応用」
東京農工大学大学院工学研究院 先端情報科学部門 教授
藤田 欣也 氏

◆見学会

NICTけいはんな情報通信オープンラボ 超臨場感テレワーク実験施設



橋本 桂樹 氏

野中 雅人 氏

藤田 欣也 氏



会場の様子

見学会の様子

セミナー「最新気象レーダが拓く安心・安全な社会2015」開催結果

- 日 時：2015年12月24日(木) 12:30～16:00
- 場 所：キャンパスプラザ京都 第4講義室
- 来場者数：67名(アンケート回収数39)
- 主催：次世代安心・安全ICTフォーラム
けいはんな情報通信オープンラボ研究推進協議会

○概要：
豪雨や竜巻による災害が多発する状況下、最新の気象レーダの開発や気象予測技術の研究開発が活発に実施されています。そこで、本セミナーでは、最新気象レーダ観測による防災・減災についてや、気象レーダによる社会イノベーションを目指した研究開発に関するご講演をいただき、関係者間の相互連携を進め、また、専門家でない方にも研究開発の現状と課題をわかりやすく解説することを目的に開催しました。クリスマスイブの日の開催にもかかわらず、大勢の方にお越しいただき、わかりやすい講演であった、フェーズドアレイレーダの活用についてよく理解できたなどの感想をいただき、好評でした。

- プログラム
- ◆主催者挨拶 次世代安心・安全ICTフォーラム会長 福地 一 氏
- ◆来賓挨拶 総務省情報通信国際戦略局 技術政策課研究推進室
イノベーション推進官 鈴木 和良 氏
- ◆基調講演「フェーズドアレイ気象レーダの開発」
情報通信研究機構 井口 俊夫 氏
- ◆講演「ゲリラ豪雨の早期探知と危険性予測」
京都大学防災研究所 中北 英一 氏
- ◆講演「フェーズドアレイ気象レーダを活用したアプリによる、
実証実験の結果について」
株式会社エムティーアイ 小池 佳奈 氏
- ◆講演「「ビッグデータ同化」でゲリラ豪雨に挑む」
理化学研究所 計算科学研究機構 三好 建正 氏
- ◆講演「フェーズドアレイ気象レーダの研究開発と今後の展望」
大阪大学 大学院工学研究科 電気電子情報工学専攻
牛尾 知雄 氏
- ◆閉会挨拶 当協議会WG主査 中北 英一 氏



福地 一 氏



鈴木 和良 氏



会場の様子



井口 俊夫 氏



中北 英一 氏



小池 佳奈 氏



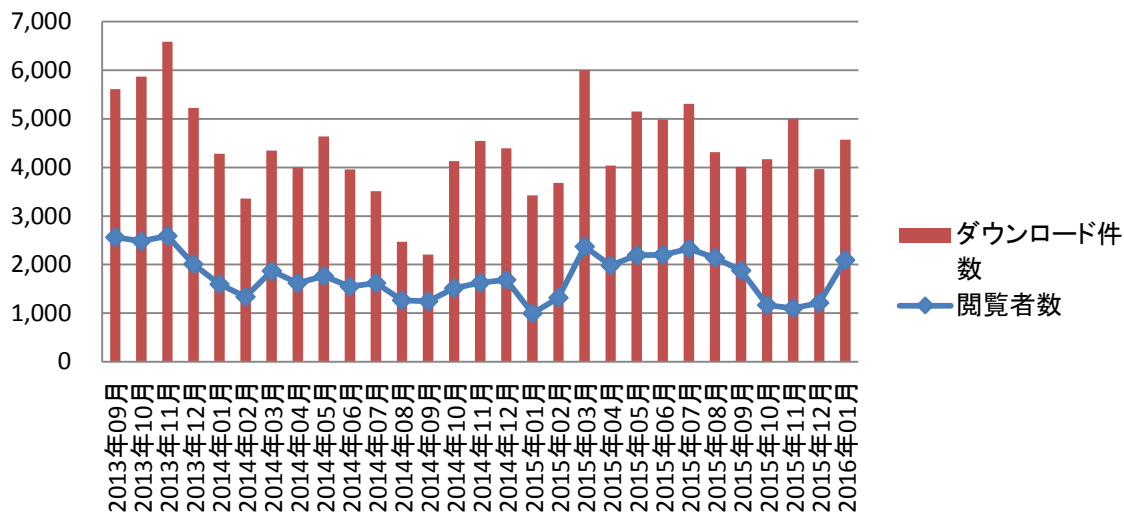
三好 建正 氏



牛尾 知雄 氏

ウェブサイト アクセス数

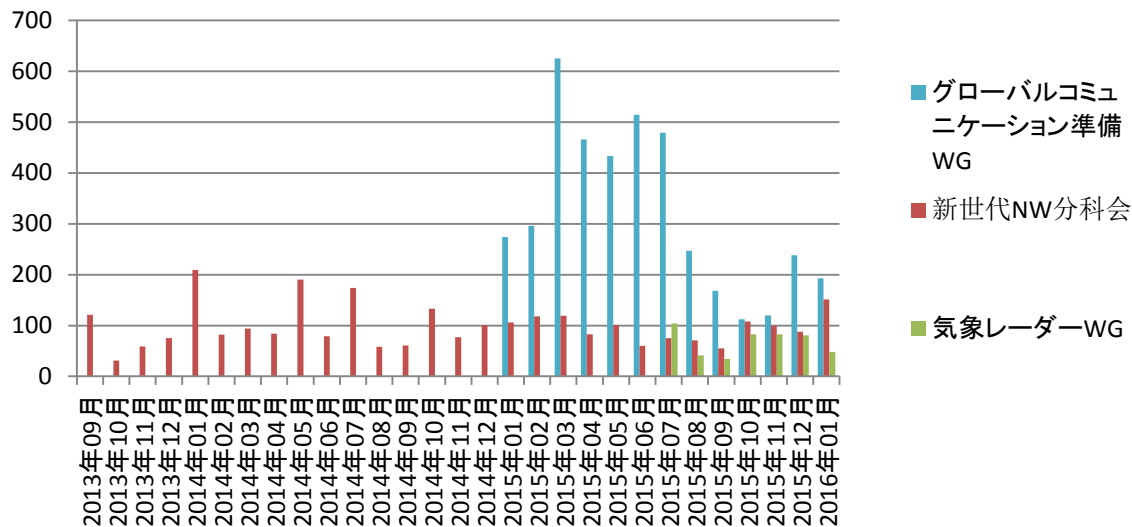
協議会Webサイト 全体アクセス数



気象レーダーWGのウェブサイトを開設 (2015年7月)



サイト別 ダウンロード件数



1. 創造系活動

- ① WG活動費によるWG活動の支援を継続。
- ② 会員アンケート、ニーズ調査の実施。

2. 促進系活動

- ① けいはんな情報通信オープンラボシンポジウム2016の開催（11月～12月予定）。
- ② 総会において、講演会を企画（6月10日予定、けいはんなプラザ）。
- ③ けいはんな情報通信フェア2016において、研究活動紹介、広報活動（11月予定、けいはんなプラザ）。
- ④ セミナー、見学会などの開催による情報提供、人材育成の実施。
- ⑤ ウェブページを活用した協議会活動の一層のPRや広報・啓発活動の強化。
- ⑥ 他団体（グローバルコミュニケーション開発推進協議会、次世代安心・安全ICTフォーラム、AC・Net、超臨場感コミュニケーション産学官フォーラム、高度言語情報融合フォーラム等）との交流・連携促進。関西ICT研究交流連絡会を通じた連携。
- ⑦ 地域の研究開発活動との連携検討（KICK等）。
- ⑧ グローバルコミュニケーション準備WGから本WGへの移行を目指す。

3. 整備系活動

- ① オープンラボ施設の充実に向けた活動の実施。
- ② オープンラボ施設の利用促進に向けたPR、広報の実施。

2016年度の活動計画②

	2016年 4月 5月 6月			7月 8月 9月			10月 11月 12月			2017年 1月 2月 3月 4月							
企画・広報分科会	● 第14回 分科会 (3/8)									● 第15回 分科会 (3~4月)							
創造系活動				WG活動支援													
				ニーズ調査、テーマ検討、体制整備													
促進系活動	→ 総会企画準備			→ セミナー開催準備			→ シンポジウム 開催準備			→ セミナー開催準備							
				随時情報発信(Webサイト&イベント案内メール送付)													
整備系活動				けいはんな情報通信オープンラボの整備・運用													
				JGN-Xなどのネットワーク施設整備・運用													
グローバルコミュニケーション準備WG				メンバー募集、会合、打ち合わせ、本WGへの移行													
【協議会関連】	● 第16回 運営研究 部会 (5/11)			● 第15回 総会 (6/10)			● セミナー (9月頃)			● けいはんな 情報通信 フェア2016 (11月)		● 協議会主催 シンポジウム (11~12月)		● セミナー (2月頃)		● 第17回 運営研究 部会 (4月~5月)	
				事務局打合せ、月1回程度開催													

- ・総会の講演会のテーマとして、AI、けいはんなへの新規立地機関の戦略、ヘルスケアなどのテーマが挙げられた。講演候補者との調整の結果、サントリーグローバルイノベーションセンター株式会社の渡邊礼治水科学研究所所長にお願いすることになった。
- ・女性向けのサロン活動についての提案があったが、会員向けのアンケートをおこなった結果、ニーズが少ないと判断した。しかし、女性参画の拡大は重要であり、セミナーやシンポジウムの講師に、適任の女性がいる場合、積極的に依頼をおこなうこととした。
- ・けいはんなオープンイノベーションセンター(KICK)との連携方策について、議論をおこなっている。

グローバルコミュニケーション準備WG 活動状況

- グローバルコミュニケーション計画及び多言語音声翻訳技術に関する情報の収集・意見交換や関西での多言語音声翻訳ビジネスを定着させるために必要なサービスの具体的な検討などをおこなった。
- WG会合を4/21、5/29、6/30、7/27、12/1、3/25に実施した。
- 大阪国際会議場で開催されたグローバルコミュニケーションシンポジウム2015では、円滑な実施に尽力するとともに、利用者側の視点で、「関西における取り組みと多言語音声翻訳技術への期待」と題し、講演をおこなった。

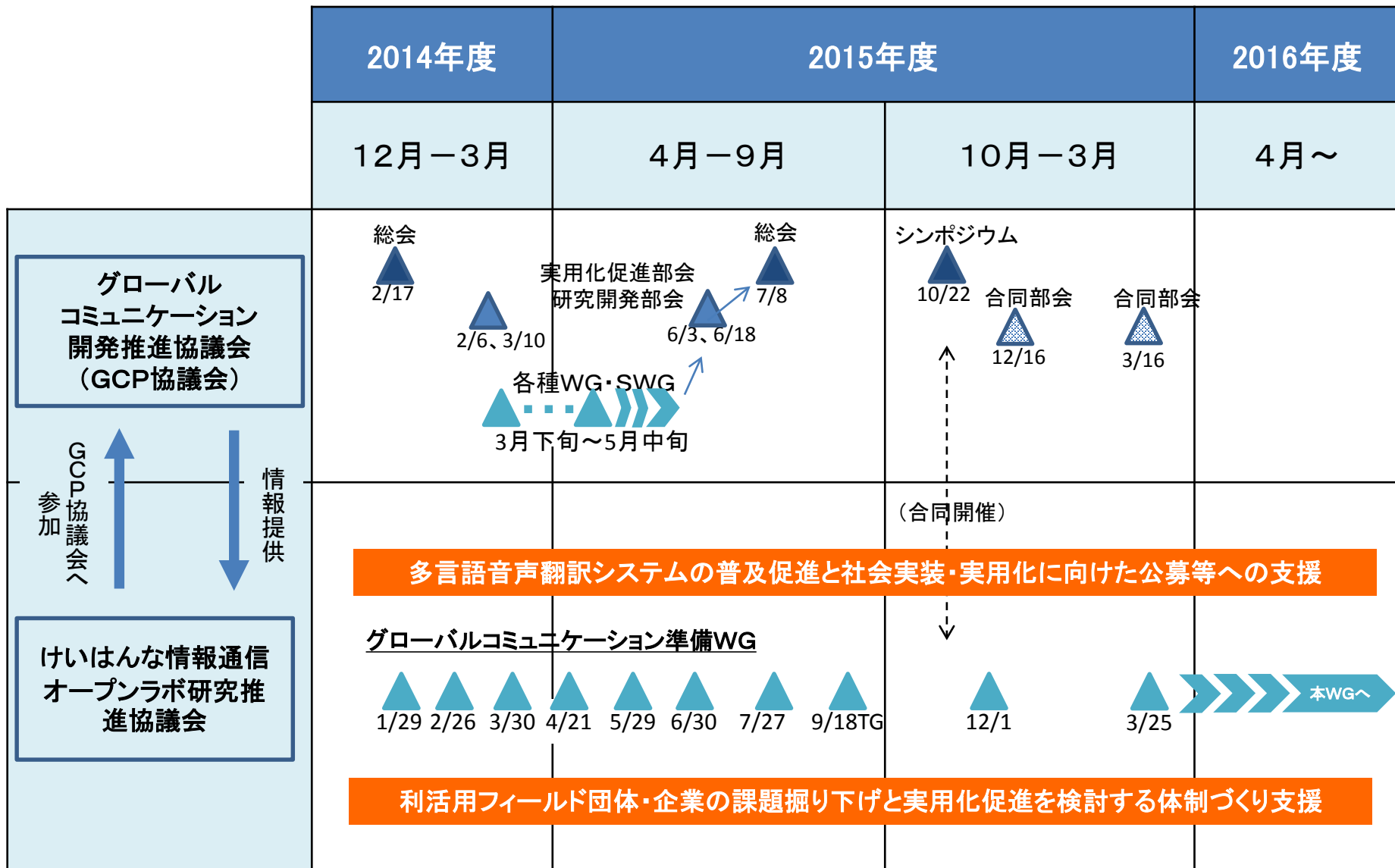


グローバルコミュニケーションシンポジウム2015での講演



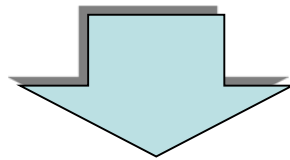
メンバーによるけいはんな情報通信フェアでのデモ展示(多言語放送サービス)

グローバルコミュニケーション準備WG ー 活動スケジュール(イメージ)



2015年度

- ① 多言語音声翻訳システムの普及促進と社会実装・実用化に向けた公募等への支援
 - ・総務省「利活用に関する開発・実証」公募提案(不採択)
 - ・同「利活用実証の実施場所」公募提案(奈良県明日香村が採択)
- ② 利活用フィールド団体・企業の課題掘り下げと実用化促進を検討する体制づくり支援



2016年度

- ・ **実証実験**や**国の資金を活用した公募**に応募するTG設置と支援
- ・ WGメンバー有志による**オープンイノベーション**TG設置と支援
- ・ 2016年総会以降を目標に本WGへ移行予定。親会として年3回～4回開催、GCP協議会を含むオールジャパンの動向に関する情報提供・説明等

実施目的

- ・協議会の最近の取り組みや研究成果を講演・展示等を通じて会員へ報告する。
- ・非会員に向けて協議会活動の広報をおこなう。
- ・新たな研究ニーズなどについて調査・検討し、今後の協議会活動の方向性の議論をおこなう。
- ・産学官連携関係者との交流・情報交換をおこなう。

これまでの実施場所とテーマ

2004年 けいはんな「オープンラボにおける産学官連携の成果」

2005年 東京「新産業創出の“鍵” —オープンラボの研究成果の活用を通じて」

2006年 大阪「ユニバーサルコミュニケーション社会の実現に向けて」

2007年 東京「ユニバーサルコミュニケーション —未来のコミュニケーションは私たちの暮らしをどう変えるか」

2008年 大阪「ICT産業の国際競争力とアジアとの連携 —日本のICT産業は世界で生き残れるのか」

2009年 東京「環境エネルギー分野におけるICTの役割 —ICTにビジネスチャンスはあるのか」

2010年 大阪「動き出した大阪駅北地区・KANSAI・明日の夢 —北ヤードは何をもたらすのか」

2011年 けいはんな「新しい日本の姿に向けた情報通信の役割」

2012年 大阪「協議会設立10周年記念 —ICTの未来を展望する」

2013年 東京「ロボティックサービスの最前線から未来へ」

2014年 大阪「グローバルコミュニケーション計画がもたらす多言語音声翻訳システムの社会実装」

2015年 大阪「グローバルコミュニケーションシンポジウム2015 — 2020年に訪日外国人が日本語で困らない社会の実現に向けて」

KICKの基本コンセプト

コンセプト 1

関西・けいはんなの
ポテンシャルを活かす

関西が有する学術、ものづくり産業の蓄積、けいはんな学研都市が有する研究開発・社会実証フィールドとしての蓄積を拠点形成に活用する。

コンセプト 2

学術と産業の融合により
新たな価値を創造する

大学等の研究開発のシーズと産業界のニーズを融合し、産学連携、学学連携、産産連携を促進することにより、商品化・実用化等を加速する。

コンセプト 3

生活と文化の
イノベーションを創出する

ICTを基盤として、エネルギー、健康医療、食糧、インフラ、教育、文化といった各領域のイノベーションを推進する。

KICKヒストリー

- 平成15年 3月30日 「私のごと館」開館
- 平成22年 3月31日 「私のごと館」閉館
- 平成23年 9月30日 関西イノベーション国際戦略総合特区の中で、国からの施設譲与により、旧「私のごと館」をオープンイノベーション拠点として活用することを提案
 - 12月22日 関西イノベーション国際戦略総合特区を国が指定
- 平成25年 4月30日 京都府特別参与に元京都大学総長 長尾真氏就任
 - 6月17日 「総合特区区域法の一部改正法」の成立（施行日：H25.6.21）
 - 7月 2日 事業スキーム策定に向け、京都大学・京都府協働パネルの設置
 - 11月29日 旧「私のごと館」をオープンイノベーション拠点として整備する旨の国際戦略総合特区計画を内閣府大臣が認定
 - 12月21日 京都府アクションプラン「けいはんなオープンイノベーション拠点整備推進プラン」策定
- 平成26年 1月29日 「けいはんなオープンイノベーション拠点整備推進のための事業スキーム」の策定
 - 3月31日 国との譲与契約の締結
 - 4月 1日 国から京都府に所有権が移転
 - 8月 1日 施設の名称を「けいはんなオープンイノベーションセンター（略称：KICK）」に決定
 - 「けいはんなオープンイノベーション拠点研究活用計画」提案募集事業開始
 - 9月 4日 第1回研究活用計画認定（2件）
 - 11月28日 第2回研究活用計画認定（1件）
- 平成27年 4月 1日 （公財）京都産業21による施設管理運営開始



KICKが展開する4つの研究開発テーマ

スマートライフ

地域住民の健康づくり（ヘルスケア、ライフイノベーション）支援までを視野に入れた、安心・安全に支えられた健やかな生涯（スマートライフ）の形成に資する研究

スマートエネルギー&ICT

太陽電池や水素燃料電池に関する新素材等をはじめとするスマートエネルギーに関する研究と先進的な未来都市創造に向けたICT（情報通信技術）基盤を活用したライフスタイルを実現する研究

スマートアグリ

先端技術を取り入れた高品質作物栽培技術の開発、機能性食品への応用等、日本固有の強みを活かす農業と健康長寿社会の形成に資する研究

スマートカルチャー&エデュケーション

蓄積された文化資産等「モノづくり」の保存・継承やアーカイブ化、地域のコンテンツを活用した教育による人材育成等、科学技術と文化の融合と未来社会への新たな価値の創造に資する研究

国際的なオープンイノベーション拠点形成 ～次世代のライフスタイルを創造する研究～

